

1 目的・背景・基本方針

君津市では、公民館が各地区の学習・交流等の場として、様々な地域活動の舞台になってきました。しかし、建築から半世紀近くが経過し、建物の老朽化や多様化するニーズへの対応等が課題になってきています。

本事業では、市内8地区・8館ある公民館のうち周南地区・小糸地区・小櫃地区の3地区を対象として、公民館等公共施設が将来にわたって地域の核として機能するよう、再整備を行うものです。



(1)現状の課題

施設の老朽化	3公民館は建設から50年程度が経過し、施設の老朽化が進んでおり、公共施設として再整備の検討時期を迎えています。
地域における社会教育の振興とコミュニティの維持	公民館がこれからも各地域の活動拠点として機能していくためには、多世代の多様なニーズに対応した、柔軟な利活用が可能な施設整備が必要です。
自然災害への対応	頻発・激甚化する自然災害に対して、地域の避難場所としての防災機能の強化が求められています。
地区の公共施設再編と拠点形成の必要性 (小糸地区・小櫃地区)	小糸地区・小櫃地区においては、公民館以外の公共施設も老朽化が進んでおり、公民館の再整備と合わせて地区内の公共施設の再編（複合化・集約化）を検討するとともに、地区の拠点形成を図っていく必要があります。

(2)公民館等再整備の基本方針(各地区共通)

【基本理念】“人と地域をつなぐステーション”としての公民館・拠点施設

公共施設としての基本性能を充足した施設整備	誰もが安心・安全・快適に利用でき、安定的な行政サービスを提供し続けられる施設となるよう、バリアフリー等の公共施設としての基本性能の充足や、DX等の技術を活用した行政サービスの質の向上を図ります。また、将来的な施設管理コスト削減のため、既存施設の複合化や現存する公共用地を活用した整備に努めます。
柔軟な利活用が可能な施設整備	シンプルで実用性の高い施設を基本としつつ、多世代の多様なニーズに対応できる機能を効率的に再整備します。 施設内レイアウトの検討に当たっては、フレキシブルな利用が可能な機能を固定しないエリアの配置や運用方法についても検討します。
防災拠点機能の強化	地区の避難場所として、耐震性の確保された建物に再整備します。 また、インフラ途絶時でも機能する防災拠点とするために、発電機・蓄電機の導入や、避難場所として十分なスペースの確保等を検討します。
公民館等再整備を契機とした地区の拠点形成 (小糸地区・小櫃地区)	生涯学習施設として多世代に利用される公民館を軸に、地区の公共施設の再編（複合化・集約化）を図り、多様な目的で訪れる人々が出会うことにより新たな活動や交流が生まれる、地域の“人”と共に成長する拠点づくりを進めます。

2 施設の再整備の考え方

①シンプルで、実用性の高い施設

- 他用途への転用が可能なS I（スケルトンインフィル）の考え方のもと、シンプルな施設構成としつつ多様な社会教育、文化、スポーツ・レクリエーション活動を受け容れる造りとしします。
- 日常メンテナンスや施設内レイアウトの変更の容易性など実用性を重視することとします。

②誰もが利用しやすい施設

- バリアフリーやユニバーサルデザインなどを考慮した施設の造りとし、誰もが使いやすい施設とします。
- ホール等のようなフリースペース的空間を設け、誰もが気軽に立ち寄れて、用事がなくとも憩い・くつろげる環境を整備し、にぎわいや交流を生む拠点施設とします。

③地球環境に優しい施設

- 君津市の「環境グリーン都市」実現に向け、「第5次君津市地球温暖化対策実行計画」の施策に従って、主に以下の事項に取り組みながら再整備を行うものとします。
- ライフサイクルコストの低減につなげるべく、再整備後の運営維持管理を考慮したエネルギー利用等の最適化を図るものとします。

施策	取組 ★：重要取組
(1)省エネルギーの推進	省エネルギー機器等の導入推進★（例：LED照明の導入など） 省エネルギー建築の推進
(2)再生可能エネルギー利用の推進	市有施設・遊休地における再生可能エネルギー設備等の導入推進★ （例：太陽光発電設備の設置など） 低炭素電力の利用推進
(5)吸収源対策の推進	森林資源の活用
(7)デジタル技術の活用による脱炭素化の推進	DXの推進

3 民間活力の導入

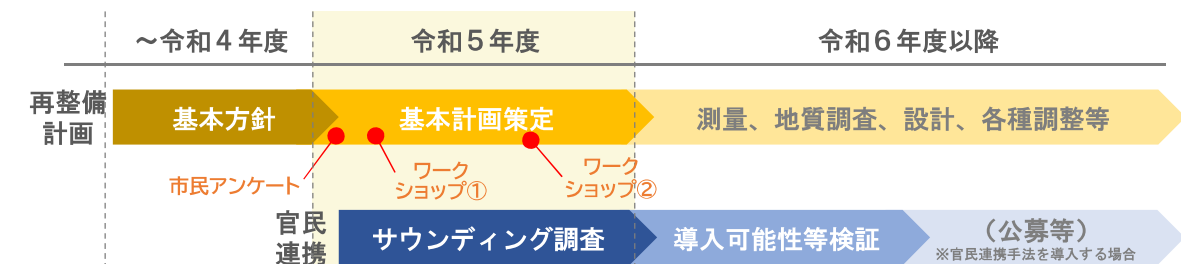
公民館等の再整備においては、民間活力により効率的・効果的な整備を進めるとともに、地域のポテンシャルを活かしたにぎわい・魅力づくりを官民連携で検討していきます。令和5年8月～9月に民間事業者等を対象としたサウンディング調査を実施しました。調査結果から、公民館等再整備における民間活力の導入方針を以下の通りとします。

■民間活力導入の基本方針

- 公民館等再整備事業を包括して発注（バンドリング）するなど、事業者の参入意欲向上や行政コストの縮減等につなげます。
- 地域の利便性向上に資する事業を施設内または敷地内に導入することを検討します。

※施設の整備～運営維持管理において民間活力の導入を想定しますが、公民館事業についてはこれまで通り君津市の直営により運営するものとします。

4 事業スケジュール(予定)



周南公民館の再整備方針

現状の課題等

【主な地区特性】

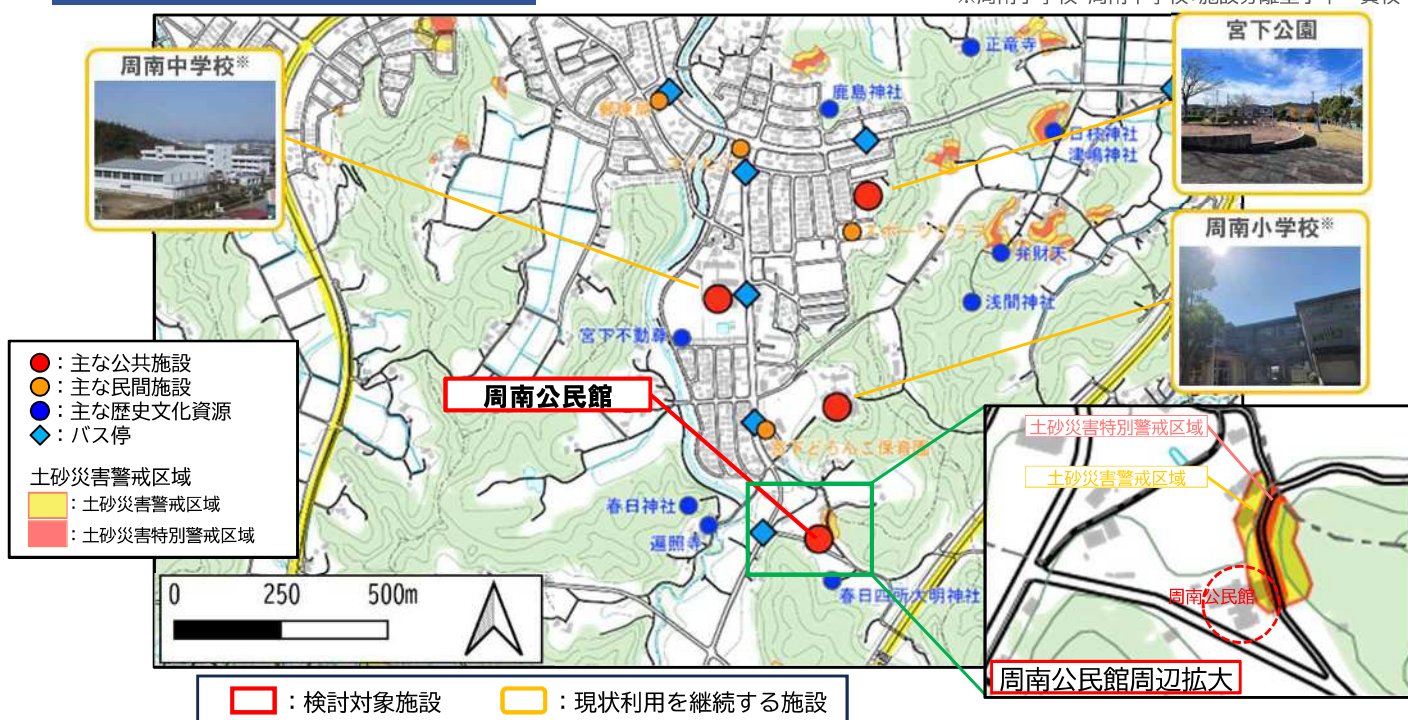
- ・市内外からのアクセス性が良く、利便性の高い立地（君津IC, 市道八重原線）
- ・住宅地と豊かな自然の農山地を併せ持つ
- ・生産年齢人口の割合が比較的高い
- ・地域ぐるみの青少年健全育成活動、コミュニティ活動が盛ん
- ・公民館で続けられてきた「ふるさと運動」は周南小・中学校でも活用され、地域と学校を深く結ぶ役割も担う

【現況の課題】

- ・災害上リスクのある場所（敷地の一部が土砂災害特別警戒区域にかかる）
- ・公民館利用者層の固定化
- ・バリアフリー 一部未対応

地区の現況・検討対象施設

※周南小学校・周南中学校：施設分離型小中一貫校



市民意見

【アンケート】

- *再整備に期待すること等として多かった回答
- ・災害対応機能の充実
 - ・誰もが使いやすい施設
 - ・用事がなくても憩い・くつろげる環境
 - ・子どもが楽しめる場所（新たに越してきたファミリー層向け施設やイベント等）
 - ・明るい・きれいな施設
 - ・スポーツ施設の整備（テニスコート、屋内スポーツ等）

【ワークショップ】

- ・常に開かれている場所⇒いつも誰かが居る場所
- ・地域活動の記録展示や周南地区内の交流の場（地域のことを知る機会を増やす）
- ・子どもから高齢者までふらっと気軽に寄れる施設
- ・新しいレクリエーションの機会の創設の場
- ・地域のハブ機能
- ・小中学校と公民館との連携強化
- ・周南地区の中心部、小中学校の近くなど、わかりやすく行きやすい場所に立地

再整備のコンセプト

地域を知り・学び・つながる公民館
周南の人・自然・歴史文化を地域の手で守り育てる場所

- バリアフリー対応とし子どもから高齢者まで誰もが使いやすい、様々な活動を受け容れる施設のづくり
- 昔から住む人も、新たに住み始める人も一緒になって地域を知り・創る場所
- 中学校敷地内への移転により、災害リスクを軽減し、小学校・中学校との更なる連携及び利用者層の拡大を図る

立地

現状、周南公民館の敷地の一部が土砂災害特別警戒区域にかかることや、敷地の広さを勘案し、周南中学校敷地内への移転を基本とすることで、多世代の人が使いやすいことや小中学校との連携強化を図る。

導入予定機能・規模イメージ

機能分類	主な諸室	規模	整備の考え方
公民館機能	講堂	160㎡程度	・集会や講演会等の利用として地域住民が集える十分なスペースの確保 ・卓球等の屋内スポーツができる構造 ・発災時の避難場所として安心して過ごしやすい空間
	会議室 1（研修室）	80㎡程度	・40人程度の利用を想定 ・会議室のほかダンス等の多用途に使用できるつくりとする
	会議室 2（兼和室）	70㎡程度	・30人程度の利用を想定 ・畳表を敷くことで和室としての機能も持たせる ・2分割し、片側の部屋には茶室の機能を持たせる
	会議室 3（兼調理実習室）	55㎡程度	・20人程度の利用を想定 ・調理台に天板を置き会議室としての利用もできるつくりとする ・災害時の活用も想定したつくりとする
図書館機能	図書コーナー ※ロビーに併設	—	・中央図書館分室(図書サービスコーナー)として1,500冊程度の蔵書
交流機能	ロビー	150㎡程度	・誰もが立寄り・集いやすい雰囲気
管理・衛生等	事務室	30㎡程度	・公民館利用の受付と図書室の貸出・予約ができるつくり
	倉庫	40㎡程度	・備品、書類・資料等の保管用
	トイレ	50㎡程度	・おむつ交換台や授乳室等、子育て世代が利用しやすい施設設備の検討
災害拠点機能	防災倉庫		・講堂から利用しやすい位置に配置する（屋外に設置）
その他	駐車場		・40台程度。移動図書館の駐停車場所や、地区文化祭等のイベント利用も想定 ・雨天時に送迎利用者や図書(中央図書館より搬入出)が濡れないよう、ポーチに面する位置に配置する